

かくだ

第186号

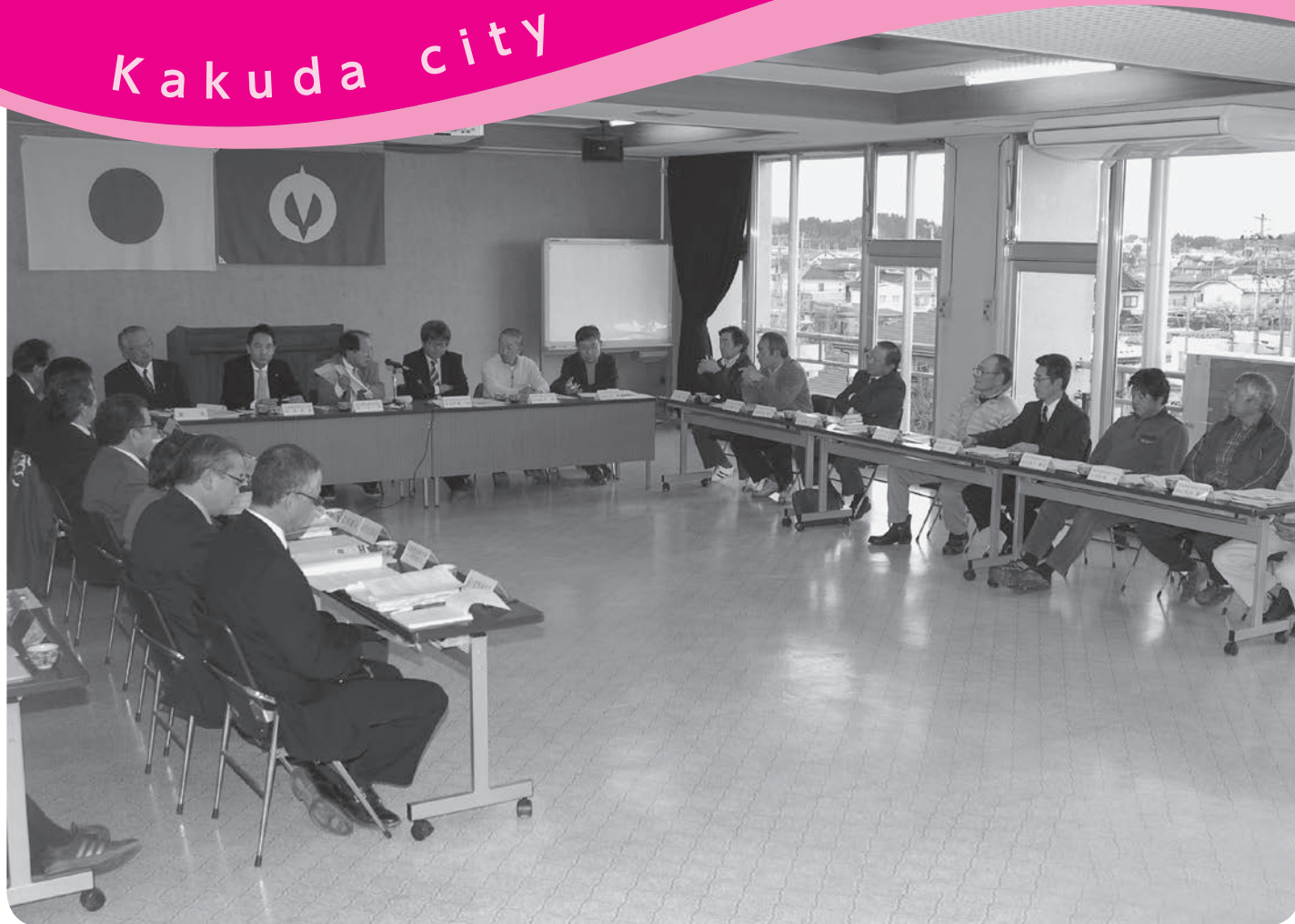
平成28年2月1日



ライブ配信やっています

※詳細は10ページ

Kakuda city



▲角田市農業経営者会議との角田市議会一般会議開催のようす（平成28年1月15日「角田市役所301会議室」にて）

■おもな内容■

| | |
|---------------|-----|
| 第380回定例会 | 2～9 |
| ◇本会議の概要 | 2 |
| ◇陳情の処理・意見書の提出 | 2～3 |
| ◇審議結果一覧 | 3 |
| ◇一般質問 | 4～9 |

| | |
|--------------|----|
| ◆2月定例会日程（予定） | 10 |
| ◆議会日誌 | 10 |
| ◆編集後記 | 10 |

条例議案、補正予算議案など 17件の議案を審議しました。

第380回定例会は12月3日に招集され、市長提出議案が15件、議員提出議案が2件、あわせて17件の議案を審議しました。上程された議案は、慎重に審議され、20日間の会期を経て同月22日に閉会しました。

本会議

◎第1日（12月3日）

会期を20日間と決定した後、市長から損害賠償額の決定及び和解についての専決処分報告がありました。

その後、市長から上程された13議案について提案理由の説明がありました。

◎第2日（12月14日）

初日に市長から提案された議案に対し、谷津睦夫議員、八島定雄議員、渡邊誠議員、日下七郎議員の4人が質疑を行いました。

上程された議案のうち、角田市個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の制定についてなど条例関係4議案について、所管の総務財政常任委員会に付託しました。

◎第3日（12月18日）

沖縄県名護市辺野古932-16
名護市議会議員
宮城 安秀ほか10人

▼最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書の採択を求める陳情

仙台市青葉区五橋一丁目5-13
宮城県春闘共闘会議
代表幹事 安藤 満ほか2人

▼東日本大震災被災者の医療費一部負担金免除及び介護保険利用者負担の減免を被災市町村の負担によらず平成28年度継続するための財政措置を求める陳情

仙台市青葉区五橋一丁目5-13
宮城県社会保障推進協議会
会長 刈田 啓史郎

意見書の提出

国等の関係機関へ、次の意見書を提出しました。

▼最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書

▼東日本大震災被災者の医療費一部負担金免除及び介護保険利用者負担の減免を被災市町村の負担によらず平成28年度においても継続するための財政措置を求める意見書

表1

第380回定例会審議結果一覧

議員数は18人。議長は表決に加わらないため、表決に参加した議員数は17人。(○…賛成、×…反対)

| 件名 | 議決年月日 | 議決結果 | 会派 | | | | | |
|---|--------|---------------------|-----|---------|----------------|-----|-----|---|
| | | | 政友会 | クラブみんしん | 日本共産党 角田市議団 | 創生会 | 無会派 | |
| 市長提出議案 | | | | | | | | |
| 平成27年度補正予算 角田市一般会計補正予算（第5号） | 12月18日 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 角田市公共下水道事業特別会計補正予算（第3号） | | | | | | | | |
| 角田市一般会計補正予算（第6号） | 12月22日 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 条 | | | | | | | | |
| 議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部改正について | 12月18日 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 角田市市税条例の一部改正について | | | | | | | | |
| 角田市国民健康保険税条例の一部改正について | | | | | | | | |
| 介護保険条例の一部改正について | | | | | | | | |
| 例 | | | | | | | | |
| 角田市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の制定について | 12月22日 | 可決 (賛成15 反対2) | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ |
| 一般職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の制定について | 12月22日 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 職員の育児休業等に関する条例の一部改正について | | | | | | | | |
| 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について | | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | | |
| 平成27年度野田排水区雨水ポンプ場建設工事請負契約の締結について 指定管理者の指定について（社会福祉法人角田市社会福祉協議会） | 12月18日 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 仙南地域広域行政事務組合の共同処理する事務の変更、規約の変更及び財産処分について | | | | | | | | |
| 行政不服審査法第81条第1項に規定する機関に関する事務の委託について | 12月22日 | 可決 (賛成15 反対2) | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ |
| 議員提出議案 | | | | | | | | |
| 意見書 最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書の提出について 東日本大震災被災者の医療費一部負担金免除及び介護保険利用者負担の減免を被災市町村の負担によらず平成28年度においても継続するための財政措置を求める意見書の提出について | 12月22日 | 可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

≪各会派の構成メンバー≫

●政友会（渡邊誠、相澤邦戸、八島 利美、黒須貫、武藤広一、堀田孝一） ●クラブみんしん（谷津睦夫、湯村勇、星守夫、高橋力雄、細川健也）
●日本共産党角田市議団（日下七郎、八島定雄） ●創生会（小湊毅、武田暁） ●無会派（会派に属さない議員）馬場道晴、小島正副議長、柄目孝治議長

加補正するとともに、繰越明許費、債務負担行為及び地方債の補正を行うものです。
歳入の主なものは、地方交付税及び市債の追加で、歳出の主なものは、次のとおりです。
○橋りょう補修工事費及び工事費積算業務委託料（枝野橋）
○医療扶助費（生活保護）

▼一般会計（第6号）

ふるさと納税寄附金の増額によるもので、歳入・歳出予算にそれぞれ2,165万円を追加補正するものです。

条例の制定

▼角田市個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の制定について

「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（以下「番号法」という。）の規定により、番号法に規定されている事務以外の事務で、市において個人番号を独自に利用する事務及び市や教育委員会において特定個人情報の授受を行う事務等について規定するため、条例の制定を行うものです。
○施行期日 平成28年1月1日

陳情の処理

▼外国人の扶養控除制度の見直しを求める意見書の採択を求める陳情
福岡県行橋市今井3713-1
小坪 慎也

▼道路舗装及び街灯設置に関する陳情
角田市角田字松ノ内118
老ヶ崎行政区
区長 目黒 哲夫ほか11人

▼沖縄の米軍普天間飛行場代替施設建設の早期実現、沖縄米軍基地の整理縮小及び負担軽減を求める意見書の採択を求める陳情

主な補正予算の概要

▼一般会計（第5号）
歳入・歳出予算にそれぞれ2億7,454万2千円を追

議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部改正についてなど、条例の一部改正4議案について、討論、表決を行い、いずれも原案のとおり可決しました。
次に平成27年度角田市一般会計補正予算（第5号）など5議案について、討論、表決を行い、いずれも原案のとおり可決しました。
その後、一般質問が行われ、5人の議員が市政全般について質問を行いました。
◎第4日（12月21日）
18日に引き続き、7人の議員が一般質問を行いました。（6～9ページ参照）
◎第5日（12月22日）
総務財政常任委員会に付託した条例関係4議案について、小湊毅総務財政常任委員長か



角田市デマンド型乗合タクシー「ラビットくん」について
馬場道晴 議員

議員▼ラビットくんのみやぎ県南中核病院(以下「中核病院」といふ)への運行について、以前にも同僚議員による一般質問や第8回議会報告会でも市民より要望があり、議会からも平成26年11月14日に市長へ要望してまい

これを受け、市当局は現状を調査し、平成27年6月19日に総務財政常任委員会へ報告がありました。その内容は、大河原町の民間企業に与える影響などの実情もあり、中核病院への運行は難しいとのことでした。

この件については、2人の市民からラビットくんを中核病院まで運行して欲しいとの強い要望をいただいたておりました。その理由は、家族が中核病院に入院し見舞いに行きたいのですが、その方は高齢で車の運転ができないうので、自宅からタクシーや阿武隈急行線、東北本線、バスを乗り継ぎ中核病院へ向かうため、乗り換えの回数や駅の階段の乗り降りが大変であることに加え、タクシー

は料金が高額で経済的負担が重くなるので、できれば、朝・夕1便でいいから運行して欲しいという内容でした。

今後、高齢化が加速し、このような方が増えていくことが予想されます。ラビットくんの運行が難しいのであれば、新たに何らかの負担軽減の政策が必要だと思いますが、市長の考えを伺います。

市長▼デマンド型乗合タクシーの中核病院への運行は、村田町が本年6月中核病院への乗り入れの申し出をしたところ、大河原町の地域公共交通会議で審議された結果、民業圧迫となることを理由に否決されました。また、柴田町も中核病院への乗り入れの意向があり、通常運行のタクシーとデマンド運行のタクシーを走らせた場合、その差額補てんについて柴田町に対し可否を問われたところ、難しいとの理由で話は進みませんでした。

こうしたことから、本市のラビットくんの中核病院への乗り入れも同様

に難しいところですが、もともと市内商業の活性化のために地域完結型としての運行導入であり、当該乗り入れは運行当初の趣旨と異なるものではないかと考えています。中核病院への乗り入れは、平成27年度から高齢者世帯のうち75歳以上の方を対象とした、社会参加の促進や通院費用の負担軽減等を目的とした高齢者福祉タクシー助成事業を地域間をまたぐ乗車の場合に、1回当たりの利用限度額を400円から1,000円に引き上げまして助成内容を拡充しました。

議員に要望された方は、恐らくこの対象外の方だと思いますが、この対象者を拡大して利用者の負担軽減を図っていく場合、どのような方を対象にすればいいのか。また、そのことによって、助成枠の拡充に対する財政負担が生じてくるので、今後の財政見通し、あるいは地域の生活の状況を捉えながら検討したいと思っております。

地方創生、人口減少社会を見据えた情報発信について

武田 暁 議員



議員▼角田市の情報提供を効果的かつ積極的に発信して、市内外に広く知っていただくことが定住人口と交流人口の増加や企業へのアピールになる第一歩だと思えますが、情報発信媒体の現状とその効果を伺います。

市長▼毎月1回発行の「広報かくだ」や回覧板、ホームページ、更に報道機関への情報提供という三本柱に加え、従来からパブリックコメントも実施しており広報紙とホームページに掲載してあります。また過去の広報紙も読めるスマートフォンアプリ「i広報紙」を平成27年2月から導入しています。ふるさと納税の大幅な増額やイベントの来場者の増加という効果がありました。

議員▼これからの広報媒体選定、特に他自治体も導入している各種SNSの活用はしないのですか
市長▼公的業務を担う自治体がSNSを使うことは、暫く状況を見る必要があると思います。平成23年より設置しているPR戦略会議で検討します。議員▼広報の本質は双方向のコミュニケーションだと考えています。現状の広報では情報を一方的に出しているように見え、角田市の行政の市民の皆様に対する姿勢のあらわれだと感じます。双方向の意見のやりとりを積極的に発信していくのが必要ではないでしょうか。
市長▼従来からのPRはプロパガンダということ通してきた経過があります。若い人たちは、やはりお互いのコミュニケーション

シヨンの一つだという捉え方をされているようです。実際に市のホームページを通じて市長へ月2、3人からメールを頂いておりますので、双方向のやりとりは今のところ出来ていると認識しています。
議員▼全国の自治体がいかに自分たちのまちが生き残っていくのかを模索する中、広報の重要性が非常に高まってきました。他自治体では「広報戦略」を策定し、何らかの事情で地元を離れた方を繋ぎとめて将来戻ってきて頂くことや、企業にも来ていただけるように情報発信を行っています。角田市の情報発信媒体だと、なかなか外部には繋がらない印象を持っています。今後、広報戦略を策定する予定はありますか。
市長▼大変重要な御指摘であると思います。しかし、情報発信に対応する体制がいま一つ整っていません。まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会の総合戦略会議のなかで、情報発信をしっかりと行えるような内容で計画にしていきたいと思います。
【武田議員のその他の質問】
○低炭素型社会の対応について

公道から民家までの道路(錠口)の舗装化の補助について

小湊 毅 議員



議員▼平成27年9月、関東・東北豪雨において、被害の多くは山間部で発生しました。角田市の山間部のお宅の多くは錠口が長く、舗装化されていない砂利道です。今回の大雨で錠口の砂利道が洗掘され、深いところでは50cmほど掘られ、車での移動はできません。歩くことさえままならない状況になりました。また、流さ

れた土砂は農地等に流出し、被害を拡大することになりました。角田市の私道等整備補助金の制度は、3戸以上で使用している私道に対し、幅員・延長等の条件を満たせば、上限を50万円として工事費の2分の1を補助する制度であります。山間部住宅の錠口はほとんど条件を満たしません。錠口の舗装化を進め、大雨の際の孤立の心配の解消や救急車等の出入りの確保という観点からも、砂利道錠口の舗装化の際に舗装資材を市が負担するという制度を設ける考えはないか伺います。

市長▼これまで自分の家の通路等(錠口)を舗装してきた方々は多く、その方々との公平性が保たれなくなる、市民の理解を得るのは大変難しいと考えています。どの錠口も全部同じように舗装の補助を行うということになれば膨大な数になるので無理な話です。人命の救助等が必要な場合には、全く次元が違う話なので、別途適切な対応をとる必要があると考えています。

議員▼黒荷田林道の黒荷田付近の排水路整備について
議員▼30年程前に黒荷田林道が整備されましたが、雨水の排水についての考
慮がなされておられません。道路をまたぐ排水路が黒荷田地区に1カ所あり、直径80cmのヒューム管が敷設されていますが、道路の下をくぐって排出された水は、何ら整備されていない原野に排出されています。昨年9月の大雨、そして4年前の大雨の際、このヒューム管から排出された水が、黒荷田の民家に向かって土砂とともに滝のように落ちてくる被害が発生しております。林道整備の際、直径80cmのヒューム管の排水量を想定していながら、なぜ排水路の整備をしなかったのですか。
市長▼もともと整備する以前から、沢として水が流れていたところに林道を整備したことで、流れに支障がないようにするためにヒューム管を設置しました。林道の道路排水については、自然流下するものであることから下流までの水路整備は行っていません。
議員▼直径80cmのヒューム管の排水量に見合った排水路の整備をするべきではないですか。
市長▼複雑な地形のため、相当な問題を抱えており、すぐに整備できません。どうすれば大雨時の被害を最小限に食い止めることができるのか、引き続き調査検討していきます。

豪雨対策としての市道の河川の改修について

渡邊 誠 議員



議員▼東根地区では大雨のたびに市道が冠水し、通行が遮断され、民家が孤立する地区が数箇所あります。市民が安全・安心に暮らすには、市道の改修や排水環境の整備など、計画的に取り組む必要があると考えます。また、平成27年に発生した台風18号により東根地区で冠水した7市道の対策について伺います。

市長▼現在、市内には大雨などの際に冠水する箇所は54カ所、市道にして47路線あり、そのうち孤立する集落は14カ所あります。今後、冠水により孤立する箇所を優先的に対応したいと考えており、工事費等について試算をしています。

市長▼現場を見ますと、3面側溝を全面するには相当距離が長いので、水門の呑み口に土砂がたまっており、断面が狭い感じになっていたり、あるいは、何mかの3面側溝を設けてみる等、そういったこと

議員▼東根地区では大雨のたびに市道が冠水し、通行が遮断され、民家が孤立する地区が数箇所あります。市民が安全・安心に暮らすには、市道の改修や排水環境の整備など、計画的に取り組む必要があると考えます。また、平成27年に発生した台風18号により東根地区で冠水した7市道の対策について伺います。
市長▼現在、市内には大雨などの際に冠水する箇所は54カ所、市道にして47路線あり、そのうち孤立する集落は14カ所あります。今後、冠水により孤立する箇所を優先的に対応したいと考えており、工事費等について試算をしています。

市長▼現場を見ますと、3面側溝を全面するには相当距離が長いので、水門の呑み口に土砂がたまっており、断面が狭い感じになっていたり、あるいは、何mかの3面側溝を設けてみる等、そういったこと
議員▼具体的なおスケジュールについて伺います。
土木課長▼冠水による通

たことで、3面側溝にした場合の効果はどれだけあるのか、まず検証しなければならぬと思っております。
また、排水も対応できるように、全体の仕組みを見直す必要があると思っております。
議員▼小坂川の3面側溝への改修工事について伺います。
市長▼この地域の地盤が相当軟弱であるために、その対策に要する費用が多額なものになりますので、この排水不良を改善することを目的にした国の補助事業の採択申請を行っておりますが費用対効果ということで、採択に至っておりません。今後、多額になる事業費をいかに抑えることができるか、この設計の見直しをしながら、あるいは国の新規事業があれば、要望もしていきたいと考えております。
【渡邊議員のその他の質問】
○主要地方道丸森柴田線の平貫地区嵩上げ工事



笠島字黒荷田地内への排水路の新設工事について

日下七郎 議員

議員 昭和54年度開設した林道黒荷田線(公衆用道路敷地)に、排水用の直径800mmのヒューム管が設置されています。しかしながら、林道黒荷田線に排水用ヒューム管が設置されていても、昭和53年10月に作成された国土調査の公図には水路敷地がありませんが、個人所有の地境上に水路があり、水路に上流の水が流入し、林道黒荷田線の側溝からの雨水等が排水用のヒューム管を通過すると、約10mで水路がなくなり、雨水等の流れは雨水等の呑み口から地下に流入し、山すその宅地の地下を流れて水田に隣接する水路に吐き出されています。今年9月8日の台風18号の豪雨には、山肌を滝のように雨水が流れ、宅地内の家の床下を流れたとのこと。そこで、私の前記したことに付いて、林道黒荷田線の管理者として市長の所見を伺います。

市長 林道黒荷田線は、ます排水用800mmのヒューム管は、当時の林道整備が行われた際、整備する林道が地表を流れる水の流れを阻害しないようにヒューム管を設置したものです。議員 林道の整備については、林道規程の制定については、(昭和48年4月1日付け、林野庁長官通知)の林道規程第27条(排水施設)の規定に係る運用細則により、笠島川までの排水路が必要とされています。よって、林道黒荷田線の構造に瑕疵(林道規程の要件が欠けている)があるかと思いますが、いかがですか。

農政課長 あくまでも林道管理に係る側溝及び取水ますの整備であり、林道黒荷田線施工当時において補助事業であることから、適切に施工されたものと考えています。市長 質問の中で、今の林道整備については瑕疵があるというのであり、ますが、私もこの林道規程第27条を読んでもいまいし、当時、どういった考え方で整備されたかという点も全く分かりません。ただ、現行法規に合せて現在の林道が果たした的確なかどうかについてはここで判断できませんので、改めて調べさせていただきます。議員 やはり、あの現状をどうしていかかということ、を先行して考えなければならぬこと、可能な限り対応をしていきます。【目下議員のその他の質問】○枝野橋(市道東町寄井線)の橋りょう補修事業について

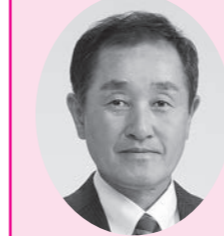
議員 農業・農村には様々な多面的機能があり、現在、農水省の交付金支援事業「多面的機能支払交付金制度(旧農地・水環境保全向上対策)」に推進していく考えなのか伺います。

市長 現在、市の農振農用地面積のうち、協定農用地の割合は45.9%となっています。今後、県の目標である65%の達成に向けて、農業関係団体などと連携をしながら、行政区や農家組合などに、制度に関する説明会を積極的に開催し、取り組みを増やしていきたいと考えています。議員 この事業を取り組むうえで一番の問題は「事務処理」を行う人材がいなく、なかなか手があげられないと聞いています。市として、その問題を解消するための方策を考えているのか伺います。

市長 人材確保が困難な地域・組織に対しては、土地改良区はじめ関係機関に対し、ご理解とご支援をいただければ、市からも要請したいと考えています。議員 江尻排水機場の移動式除塵機については、設置当時から作業能力が劣り、4台あるポンプの能力をフルに発揮できない現状です。そこで、今後の改修計画について伺います。

多面的機能支払交付金制度の推進について

武藤 広一 議員



議員 農地や土地改良施設が持つ多面的機能は、市民生活に直接又は間接的に潤いや憩いを提供しております。現在、これらの施設の維持管理は「農家負担」のみで行っている現状です。そこで、農家への助成措置として、補助金制度の新設について考えを伺います。市長 農業水利施設については、様々な多面的な機能を有していると理解しております。現在、県の補助事業等を導入し、助成事業に取り組みたいと思います。他にも、県のガイ

市長 現在、東北農政局によりまして、国営かんがい排水事業角田二期地区として、平成28年度まで調査解析を行っております。市としても早急な除塵機の改修(固定式へ更新)を要望しています。が、順調に進んでも平成31年度の工事着手になると予定されています。議員 平成31年度着工のことですが、これから頻りに起る豪雨に対して、ゴミがネックとなり、運転に支障が出ることで、回避しなくてはなりません。1年でも早い着工を要望します。



角田市の教育について

相澤 邦戸 議員

議員 新教育委員会制度になった今、教育長としてこれまでの教育をどのようにに繋げていこうとしているのか。教育長 学校教育での小学校英語特区の取り組みは、角田市の先進性・先導的な教育の風土を示すものだと思います。社会教育では、スポーツと文化のバランスの取れた教育を展開しています。これまでの業績を継承することが、これから

の角田市の教育の発展の土台となると捉えています。議員 新教育長としてどのような教育に対する特色を打ち出していくのか。教育長 特色としては、持続可能な社会を目指す人づくりと学校教育、社会教育のすべてにおいて、0歳児からの教育をスタートラインとする考えです。子育てをする保護者に、今までに培われてきた子育ての文化を引き継いでほしいと考えています。議員 新しく設置された総合教育会議の運営方針を伺います。市長 角田市総合教育会議運営要領に従い会議運営を行っています。予算や条例案等に加え、保育や福祉等の市長権限に関わる事項について調整するほか、教育委員会のみ権限に属する事項についても意見交換を行います。平成27年6月に1回、会議を開催しました。教育長 教育行政に施策のスピード感と説明責任をこれまで以上に明確にした協議調整の場になるよう努めます。議員 総合教育会議で市長と教育委員会の意見等がかみ合わない場合、どのように対処されるのか。市長 総合教育会議は市長と教育委員が議論し調整を尽くす場であるので、首長の主義・主張を教育の場で訴えていく考えはありません。教育の民主性・

公平性等、大事な要素は最大限に尊重して進めていきます。女性の相談窓口について 議員 女性の活躍が活躍できる環境を整えることが、女性からの相談に対応しているのか。市長 女性に関する問題は、妊娠、出産、子育て、仕事と家庭の両立、介護等、数多くありますが、ワンストップできる体制を整っています。相談内容に応じ担当課が対応しています。議員 女性の悩みは複雑多岐にわたっており、活躍しにくいと感じる場合、活躍しやすい環境を整えることが、女性からの相談に対応しているのか。市長 ウェルパークや市民相談を利用していたら、女性からの相談が多いのか。市長 家族関係、DV、保育所入所の相談が多く寄せられています。議員 女性の活躍を推進するための課題は何と捉えていますか。市長 介護による離職、介護職に対する待遇の改善、子育て支援の強化、目標を定めた保育所の整備等があり、国と歩調を合わせ課題に取り組みしていきたい

議員 今後のまちづくりで公民連携事業をどのように積極的に活用していくのか。市長 民間活力導入として、PPP、PFI、業務委託、あるいは指定管理者制度を活用し、積極的に公民連携を推進しようと考えています。議員 若手県紫波町の「オガールプロジェクト」のような公民連携事業を推進する考えはありますか。市長 収益事業では、PPPを積極的に取り入れていく考えです。市は、公共・公益事業ですので、民間や指定管理者制度を導入し、公設民営で進めてきました。議員 行政は経営を意識し、民間も公を意識した事業を進めるべきと考える考えはありますか。市長 意識改革については、職員も公共の限界を感じ、民間の手法に任せたい方が多い場合があるという考えは持っています。ただ全てを民間に委ねることができない状況

にありますが、行政がまず旗を振り、そこを後進が追いつくという経済活性化もないと認識しています。議員 公民連携事業を道の駅計画に活用すべきと考えますが、いかがですか。市長 運営会社を先に立ち上げ、駅長などの経営責任者の意見を反映した施設建設から経営まで一括して任せるといった公民連携の手法については、現段階では難しいと考えます。施設は公設で整備し、施設の管理運営は市と民間企業が共同出資する運営会社に委ねることが適当と判断しています。議員 定期的に「(仮称)とも」を考えるまちづくり勉強会を開催し、市職員や市民の意識改革を図る考えはありますか。市長 市民、行政、民間企業などがコラボレートして、勉強会や研究会的な場を設けることは地域の課題解決や期待の持てるまちづくりを進める上で大変有効な手段であると思うしております。議員 子どもの個性を生かす教育改革「日本一のかくだ」を目指した取り組みについて。市長 日本の教育のまちを目指すため、今後、総合教育会議等で教育委員会と議論をしていきます。が、JAXAと連携して「宇宙教育」なども検討していきたいと思っています。教育長 魅力ある教育の実践をするため、0歳児を起点とした持続可能な社会のづくりを展開します。0歳児の親の学びの支援から始まり、子どもが考える力や学ぶ力のリテラシーを育成し、人間が生きていくための力となる考えの力を基本を育てます。

新たな発想の稼ぐまちづくり「公民連携事業」の推進について 八島 利美 議員





「賑わいの交流拠点施設整備」に伴う角田市一般会計財政の見通しと財源確保策（ふるさと納税）について

谷津睦夫 議員

議員▼過日行われた全県協議会で説明のあった「賑わいの交流拠点施設整備実施計画(案)」及び「角田市一般会計財政の見通し」の中で、考える方向性が不十分と思える財源確保策のうち、ふるさと納税関連の1点に絞って質問します。

議員▼全国における自治体の実績はどのようになっているのか伺います。市長▼平成27年10月に総務省がふるさと納税に関する現況調査結果を公表しています。第1位は長崎県平戸市で寄附金額が14億6300万円、寄附件数が3万6067件、特典カタログとポイント制をいち早く取り入れた自治体です。2位は佐賀県玄海町で10億6700万円、4万9778件、旬の味覚が毎月届くプランがヒットしています。第3位は北海道土幌町で9億5700万円、5万3783件で、北海道グルメをふんだんにそろえ、リピートする寄附者が多い自治体ということになります。

議員▼角田市では、平成27年度当初予算で300万円を計上し、今定例会において600万円に増額補正をする見込みとなっております。このような増収をどのように分析しているのか伺います。市長▼インターネット申

議員▼平成18年度より、角田市行政集中改革プランの一環として、市民と行政が役割分担のもと「市民と行政の協働のまちづくり」を推進しておりますが、事を行う場合（人・モノ・カネ）が必要であり、今後の活動に対し、どの様に考えているのか伺います。



▲平成27年6月5日開催 北郷地区振興協議会総会の様子

所の整備を行ってまいりました。平均すると年間4,000万円から5,000万円ぐらいの予算を組んで実施してきました。5年経過し、要望を3項目ぐらいつけていた中で、すでに2番目が完了した地区もある一方、全然着手していないところもあり、地域間のバランスが崩れておりうまく進んでいない状況にあります。今後5年間につきましては、平成27年12月2日に正副振興協議会長、自治センター長にお集まりいただいたり、各地区の新たな要望箇所優先して取り組んでいきたい事業について話し合う機会を設けました。

協働のまちづくりについて

堀田孝一 議員



市長▼これまで地区担当職員、地域支援班員を配置し、部会活動の支援等に努めてきました。物については、地域ごとに活用できる地域資源を上手に活用して行われているかと思っております。お金は問題がありませんが、市としても、財政支援を行っておりますが、まだまだ不足だと思えます。新たな課題も生まれてきておりますので、行政としてもしっかりと対応できるように一緒に話し合いをして、事を進めてまいりたいと思っております。

議員▼各地区振興協議会の要望整備事業の進捗状況（平成23年度～平成27年度）及び今後（平成28年度～平成32年度）の計画を伺います。市長▼平成23年度から平成27年度まで、まずは5カ年間の具体的な要望箇

議員▼評価結果の客観性と透明性の担保には、評価される側の職員に結果に対する意見表明と評価結果を修正する機会を与える必要があると考えています。このことを考慮して、このか伺います。

議員▼来年度から始まる人事評価制度に関し、労働組合とは、どの程度協議をしているのか伺います。市長▼組合側は昇格格差を伴う人事評価制度の運用を拙速に行わないでほしいとのこと、職員が納得できる評価制度構築と運用が叶った暁には、給与制度への反映も検討したいと思っております。その際は、組合と協議しながら進めていきます。

議員▼現在どのような到達段階ですか。その経緯と、今後どのようにしていくのか伺います。市長▼平成23年から手代木沼側の田んぼ10アールに移植用のハス苗を育成し、代替観賞用として花を咲かせてきて、その面積を28アールまで拡大しました。苗の移植について、場所や時期を変えたり、水深を調整する等工夫を凝らしながら、平成25年10月、平成26年5月、平成27年3月と、3年度試みましたが、残念ながら定着には至りませんでした。



阿武隈川流域の水害対策及び枝野地区の内水対策について

黒須 貫 議員

議員▼平成27年9月の台風18号による関東・東北豪雨では、角田市も大きな被害がありました。地球温暖化等が原因とされる異常気象の時代に、市民の生命と財産を守ることに、今以上に行政に求められています。今、丸森町小高方面から枝野地区に流れる横堀川が氾濫し、広範囲が冠水しました。豪雨時の氾濫が常態化しています。沼尻排水機場の能力不足と思われるのが、対策はありますか。市長▼改善策として上流部の堂畑樋管に強制排水施設の造成が必要と考えていますので、国・県に要望したいと考えています。議員▼阿武隈川は丸森町金山から小高にかけて急激に向きを北に変えますが、枝野地区はその下流に位置しています。堤防は水流に対して強度があると考え、越水した際には崩壊もあり得る行政では水害に備え「自助」「共助」の対策を整えています。

議員▼各地区振興協議会の要望整備事業の進捗状況（平成23年度～平成27年度）及び今後（平成28年度～平成32年度）の計画を伺います。市長▼平成23年度から平成27年度まで、まずは5カ年間の具体的な要望箇

議員▼高台がない枝野地区では、新桜井川堤防を緊急避難路とする考えがありますか。市長▼この地域は、洪水ハザードマップでは2.5mに浸水する箇所があり、新桜井川の堤防を避難路として使用することは危険ですので、避難路としての整備には課題があると思えます。やはり早めの避難が大切であり、そのために、早めの避難の準備をしなくてはならないと考えています。議員▼市内の会社や工場への防災に関する働きかけや連携について伺います。市長▼水防法に基づき、市の地域防災計画に要配慮者の利用施設（学校や介護施設など）39施設を掲載し、洪水予報等を市から直接伝達することにより、は所有者から申し出により伝達しますが、申し出はありません。

市職員の人事評価制度導入について

八島定雄 議員



議員▼全国における自治体の実績はどのようになっているのか伺います。市長▼平成27年10月に総務省がふるさと納税に関する現況調査結果を公表しています。第1位は長崎県平戸市で寄附金額が14億6300万円、寄附件数が3万6067件、特典カタログとポイント制をいち早く取り入れた自治体です。2位は佐賀県玄海町で10億6700万円、4万9778件、旬の味覚が毎月届くプランがヒットしています。第3位は北海道土幌町で9億5700万円、5万3783件で、北海道グルメをふんだんにそろえ、リピートする寄附者が多い自治体ということになります。

議員▼来年度から始まる人事評価制度に関し、労働組合とは、どの程度協議をしているのか伺います。市長▼組合側は昇格格差を伴う人事評価制度の運用を拙速に行わないでほしいとのこと、職員が納得できる評価制度構築と運用が叶った暁には、給与制度への反映も検討したいと思っております。その際は、組合と協議しながら進めていきます。

市議会2月定例会

日程(予定)のお知らせ

- 2月 12日(金) 招集告示、会派代表者会議
- 16日(火) 議員協議会、議会運営委員会
- 19日(金) 本会議(提案理由の説明)**
会派代表者会議
- 23日(火) 議会運営委員会
- 26日(金) 常任委員会(請願審査)
- 29日(月) 本会議(質疑・自由討議)**
予算審査特別委員会
議会運営委員会
- 3月 2日(水)
- 3日(木) 本会議(討論・表決)**
予算審査特別委員会
予算審査特別委員会
会派代表者会議
- 3月 4日(金) 予算審査特別委員会**
会派代表者会議
- 7日(月) 予算審査特別委員会分科会
(総務財政・産業建設)
- 8日(火) 予算審査特別委員会分科会
(教育厚生)
- 9日(水) 常任委員会(議案審査)
- 10日(木) 常任委員会(議案審査)
- 11日(金) 予算審査特別委員会**
- 14日(月) 本会議(一般質問)**
- 15日(火) 本会議(一般質問)**
議会運営委員会
- 16日(水) 本会議**

※請願及び陳情等の提出期限は、2月12日(金)までとなります。
 ※本会議の開会時刻は、午前10時です。
 ※太文字はライブ配信を行います。

議会を傍聴しませんか。

定例会は、年4回開催されます。皆さんの身近な問題が審議されており、どのような方針で市政が進められていくのか知ることができます。お気軽に足を運んでみませんか。
 また、インターネットを利用したパソコン、各地区自治センターのテレビ及び市役所東庁舎1階の市民ホールのテレビでも議会中継がご覧になれます。



※日程は変更される場合がありますので、傍聴を希望される場合は、議会事務局(☎63-2124)にお問い合わせください。

第380回(平成27年12月)定例会

傍聴者数 102名
 インターネットライブ中継視聴者数 118名

議 会 日 誌

10月

- 22日 鹿児島県始良市議会総務常任委員会
- 20日 業団議会定例会
みやぎ県南中核病院企業団議会定例会
- 19日 議員協議会
議会運営委員会
議会改革検討会議
- 16日 告示
第379回臨時会招集
- 15日 常任委員会行政視察
- 14日 北海道北斗市議会総務社常任委員会行政視察
- 熊本県合志市議会健康福祉常任委員会行政視察

2623日

第379回臨時会
 全国市議会議長会基地協議会東北部会第23回定期総会(27日・三沢市)

28日

青森県三沢市議会会派(拓心会)行政視察

30日

宮城県市議会議長会秋季定期総会(東松島市) 仙南地域広域行政事務組合議会定例会

11月

- 12日 全国市議会議長会第1局職員研究会(岩沼市)
- 2日 宮城県市議会議長会事務局職員研究会(岩沼市)
- 1日 市議会だより第184号発行

261916日

142回地方行政委員会(東京都) 全員協議会
 議会運営委員会
 第380回定例会招集 告示

30日

会派代表者会議
 議員協議会
 議会運営委員会

3日

第380回定例会本会議(第1日)
 会派代表者会議
 議会運営委員会
 会派代表者会議

12月

- 14日 議会議改革検討会議
- 7日 議会議改革検討会議

181715日

総務財政常任委員会
 議会運営委員会
 本会議(第3日)
 議員協議会
 本会議(第4日)
 議会運営委員会
 本会議(第5日)

2524日

仙南地域広域行政事務組合議会定例会
 全員協議会
 議会運営委員会

22日

市議会だより第185号発行

1月

- 14日 議会議改革検討会議
- 8日 議会議改革検討会議
- 1日 議会議改革検討会議

編集後記

昨年12月行われた角田市議会第380回定例会は、昨年9月に行われた市議会議員選挙後、初となる定例会でありました。

非常勤職員の処遇改善に関する条例の制定や平成28年度から国民健康保険税の税率を一定程度引き下げる等の条例の改正、昨年9月に発生した台風による豪雨の災害復旧事業の追加分やふるさと納税寄附金の増加に伴う追加補正予算等が主な議題となりました。

また、一般質問においては12人の議員が市政に対して質問をし、非常に活発な議論の場となりました。特に初当選議員5人全員が一般質問を行い、その議論の様子、これからの角田市議会がさらにより良いものになっていくと感じました。

市と議会が知恵を出し合い、切磋琢磨しながら前進してまいりますので、これからも角田市議会に注目頂きますようお願いいたします。

議会だより編集会議

印刷/佐藤印刷株式会社